

取引環境と長時間労働の改善に向けた ガイドライン(建設資材編)の骨子案について

1. 基本的な考え方

- とくに荷待ち時間の長い輸送分野に特化して、課題の洗出し、原因分析、課題の類型化を行った上で、課題解決のためにサプライチェーンの各関係者が取組むべき具体的な取組メニュー等を示すことで、サプライチェーン全体でトラック輸送の生産性向上や物流効率化に取り組むことを求め、当該輸送分野のトラック運送事業における取引環境の改善及び長時間労働の抑制の実現を目指す。
- 課題解決のためにサプライチェーンの各関係者が取組むべき具体的な取組みメニューについては、アドバンス事業（今年度の実証実験）や過去の実証実験の結果から一般化して提示する
- 本ガイドラインのサプライチェーン全体への周知方策や、来年度以降も引き続き課題解決に向けて取り組んでいく姿勢を提示する。

2. ガイドラインの骨子案

【まえがき】～現状と課題～

- 懇談会での意見や追加調査等から把握した現状を記載
- 課題を類型化して提示

反映

実態調査

アンケート調査

【本編】～課題に対する解決の方向性・具体的な解決方策～

- 類型化した課題ごとに解決の方向性を提示
- アドバンス事業や過去の実証実験の取組みから、解決策を一般化して提示
- アドバンス事業やヒアリング調査から具体的な取組み事例を紹介（効果、導入にあたっての留意点等）

反映

アドバンス事業

コンサルティング事業（H30）

パイロット事業（H28・29）

ヒアリング調査

【あとがき】～今後の取組み方針～

- サプライチェーン全体への周知方法等を記載
- 引き続き現状・課題把握や課題解決方策の検討を行うことを記載

「取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン(建設資材編)」 本編のイメージ

※現在調整中の事項もあるため、内容が変更となる場合がある。

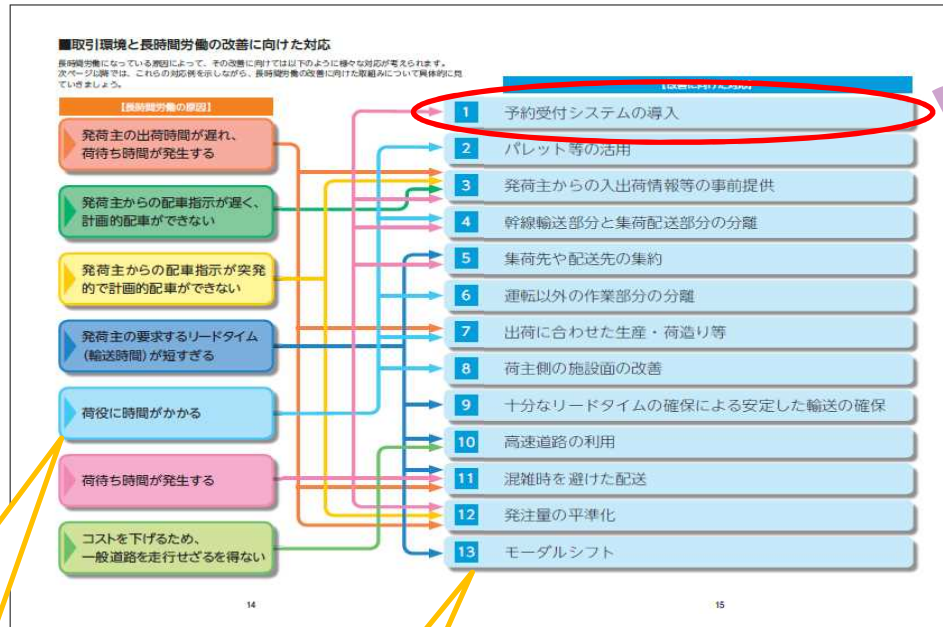
【建設資材物流における課題の特徴】

- 工事現場には非常に多くの関係者（職長等）に紐づいた建設資材が工事の進捗状況に応じて搬入されているが、天候や設計変更等により当初の搬入計画どおりに運用が進まなくなると、限られた荷卸しスペースにトラックが集中し、荷待ち時間が発生している。
- 建設資材は多品種であり、かつ、邸別・部屋別など物件ごとに搬入される製品が異なるため、出荷時・納品時の作業が複雑化・長時間化しており、トラックドライバーの荷待ち時間につながっている。
- 上記課題の解決の手段として、ICTの活用があまり進んでいない。

現状	課題	解決方策	
工事現場において当初の計画に変更が生じた際、職長→サプライヤー→トラックドライバーの順に伝言ゲームのように電話等で連絡している。	工事現場に関する情報が十分かつリアルタイムに共有されていないため、持ち帰り等のトラックの無駄な運送が発生している。	スマホアプリ等を活用した情報共有や、車両の動態管理アプリを活用した工事現場による搬出入管理の実施	【参考となる事例等】 ・搬入計画を事前に共有するためのアプリと車両の動態管理アプリを組み合わせた搬出入効率化実証実験の結果を紹介
「前日午後注文、当日朝納品」といった短納期での納品サイクルとなっている。また、メーカーが設定している発注期限が守られない。	見込み配車等による無駄な待機時間が発生している。	(※サプライチェーンの関係者を巻き込んだリードタイム確保策の検討結果等を踏まえて記載)	【参考となる事例等】 ・地方懇談会における検討結果の紹介 ・リードタイムに関するヒアリング結果を参考資料として別冊に掲載
「車上渡し」が原則でありながらも、着荷主側の人手不足等により、ドライバーが附帯作業を行っている。	契約上不明確なままドライバーによる附帯作業が行われている。	運送と附帯作業の役務内容を事前に明確化し、ドライバーが附帯作業を行う場合は、当該作業内容を契約上明確にした上で、料金収受を徹底する	【参考となる事例等】 ・附帯作業アンケート調査結果を参考資料として別冊に掲載 ・建材、住設メーカーが実施した附帯作業調査結果を紹介
メーカーや問屋においては、検品の際の品番確認を目視で行っている。	製品が多品種である上、邸別・部屋別の仕分け情報の確認に時間がかかっている。	目視での検品作業からQRコード等の技術を活用した検品手法への転換	【参考となる事例等】 ・「建材物流コード」の導入実証実験の結果を紹介

※上記に加えて、荷待ち時間の更なる実態把握のため、荷待ち時間が発生している品目、場所、原因等について、ヒアリングやデータ収集等を通じて分析を深めることになっており、調査結果を踏まえて建設資材物流における荷待ち時間削減方策を整理、記載する。

(参考)「取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン」



課題解決方策ごとに参考事例を紹介

課題を類型化

課題に対応した解決方策

対応例 1 予約受付システムの導入

●先に到着したトラックから順番に荷積み・荷出しが行われる場合には、早い順番を取るために多くのトラックが集荷先・配送先に必要以上に早く到着する場合がありますが、荷出し・荷受けについては処理能力の制約があるため一定のペースで行えず、結果として、長時間の荷待ちが発生する可能性があります。

●こうしたケースでは、予約受付システムを導入・活用して、バース毎での荷役予定時間をあらかじめ決めることにより、

- ①トラック運送事業者による到着時間を越えた運行計画の策定
- ②発荷主側による庫内作業の準備が可能になり、荷待ち時間を減らすことができます。

●荷主にとっては、あらかじめ庫内作業の準備を進めることにより、荷受け作業を効率化することが可能になります。

事例① 一貫/レセプションと受付予約システムで発荷主滞在時間を短縮 (山崎製パン株式会社)

●発荷主が外販倉庫活用を前提とした生産計画の組み換えを行った

●元請事業者が入庫場・進捗管理システムを構築し、トラック運送事業者に公開した

●買運送事業者がシステムを活用して、ドライバーの出発時刻の調整を行った

●発荷主が外販倉庫活用を前提とした生産計画の組み換えを行った

●元請事業者が入庫場・進捗管理システムを構築し、トラック運送事業者に公開した

●買運送事業者がシステムを活用して、ドライバーの出発時刻の調整を行った